

特大重量貨物の輸送で伸びる 独ゴールドホファ社 事例紹介

文と写真 西 襄二

8月号で紹介した特大重量貨物(超大型変圧器)の輸送に供された油圧駆動の多軸車は、ドイツに本社工場があるゴールドホファ社から日立物流に納入された「特大重量物用運搬車」だ。この製造企業を現地に訪ね取材した。

超・大型貨物輸送車と 空港の地上機材に特化

ドイツの商都・フランクフルト市から南南東におよそ250kmの地点に古く美しい地方小都市のメミンゲン市が位置している。その中心部からおよそ2.5kmの郊外に目指す GOLDHOFER ゴールドホファ社はあった。わが国風に言えば郊外の商工業団地の一角である。

わが国では生産されていない特殊用途車に特化した製品を世に送り出している当社は、この地で1705年に農機具を作る家業としてゴールドホファ氏が鍛冶屋を開業したという。以来、農具メーカーとしてめんめんと、かつ着実に実績を重ねてきたが、1942年



ゴールドホファ社の本社事務棟外観

にいわばリヤカーのような自動車でけん引する簡単な農業用トレーラの製品化を行う。それからの発展は急ピッチで、1962年に今日の主力製品であるモジュール式のトレーラの先駆けとなる製品を世に送り出した。



ゴールドホファ社の本社工場外観(部分)



前面道路の先にはスーパーマーケットなども立地している

1975年には超大型トレーラの製品化に成功し、1989年に油圧駆動のモジュールの製品化の先駆けを行っている。これが電子制御の高度な活用で100台単位の連結状態での進路と駆動力制御を可能として今日に至っている。このグループの製品はドイツ語では「シュヴァーラストモジュール Schwerlastmodule」、英語では「Heavy Duty Module」、略してHDMと称している。この分野で

は、2012年に積載重量500トン級まで大型化が進んでいる。

永く家族経営で個人企業として発展してきたが、2000年に株式会社に改組した後、2013年には空港の地上作業支援機材(Ground Support Equipment : GSE)の総合メーカーであるSCHOPF ショップ社をM & Aにより傘下に取得して2大事業部門を活動基盤とした。



SCHOPF ショップ社の大型旅客機にも対応するプル/プッシュトラクタの例(G)

2017年に持ち株会社を設立し現業を担当するゴールドホファ社とショップ社がその下に位置し、ゴールドホファ社の下にゴールドホファ・アメリカ社を従える体制としている。日本にもゴールドホファ・日本社を置

いて営業・サービス全般を担当している。

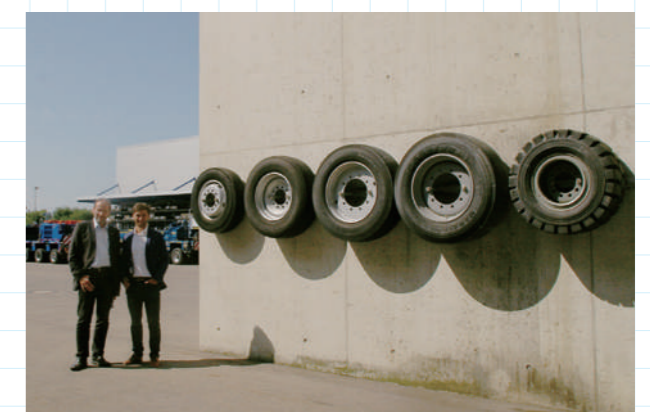
ショップ社はシュツツガルト市に近いバーデンビュルテンバーグに所在しているので今回の取材対象からは外した。以下はゴールドホファ社の現況である。

納入先の諸要望 きめ細かに対応

ゴールドホファ部門の本社工場敷地は100K㎡(東京ドーム2.13個)、従業員は約620名(平均年齢は35才から40才の間との説明)、直近決算(2017年7月期)では売上高が190Mユーロ/年(1ユーロ130円換算で247億円/年)だという。利益については取材時に公表しなかったが、総じて中規模ながら高収益な企業という印象を受けた。高度な技術力が外では真似ができない独自製品を生み出して業績を伸ばしているといえよう。

わが国への導入では日本通運、電材ロジスティク

ス、宇徳運輸などが先行し、今回の日立物流への納入は最新の動きである。サービス面では納入先の要



主要製品のトレーラ、HDMに用いられるタイヤはここに展示されている5種に絞られている(詳細省略)。人物は左がエリッヒ・トラウブ氏(広報担当)、右がミヒャエル・フェネバーク氏(営業技術担当)

員をドイツに招いて訓練し、必要に応じてドイツからサービスエンジニアを派遣しているという。勿論サービス部品は円滑な運用を支える重要な部分で、滞りなく供給されている。

今回の取材時には納入出荷待ちの製品を相当台数を見たわけだが、対応してくれた広報部門のエリヒ・トラウプ、営業技術のミヒャエル・フェネバーグの両氏の説明を要約すると、目下、伸び代の大きい製品は風力発電関係機材の運送であるという。こうした背

景により生産能力の拡大を計画中でもあるという。

大きな堅造物の場合、現場での組み立て作業を可能な限り絞り込んで工場等で予め組み立てて工期を短縮することが求められるようになっている。超大・重量物輸送の重要はまだまだ伸びるであろう。

〈お断り：一部の(G)を付した写真はゴールドホファ社の提供による〉



目下需要が伸びている超大貨物(この場合は風力発電用ブレードの一部)用トレーラ台車(G)



超大ブレードは回転軸への取り付け部分でしか支持出来ないで、このような大きなアタッチメントを必要とする



Rの小さい道路で倒して積載しては曲がれない場所ではこのように大きく仰角をつけて周囲との干渉を回避する(G)



一見、多軸ながら一般的セミトレーラに見えるが、セミトラクタからの油圧供給でステアリングと治陸駆動機能が搭載されている



超大貨物の幅方向のみ出しに備えたエクステンションバーも内蔵されている



グーネック部分にも通常のセミレには見られない配管と配線が組み込まれている



ブレーキ系統は WABCO 製品によるが、一般道路を走行する際の EBS 機能はトレーラ側のステア機能を使用する場合はカップリングの接続変更で機能を殺す。その他の細かい仕様については紙幅の関係で省略するので読者の皆さんで読み解いて頂きたい



こちらのトレーラは HDM に近い諸機能を搭載している。複輪単位でステア機能を持つ



アクスルは BPW 製のほか、GIGANT 製も指定により採用される



走行速度によって積載重量に格差が設けられている



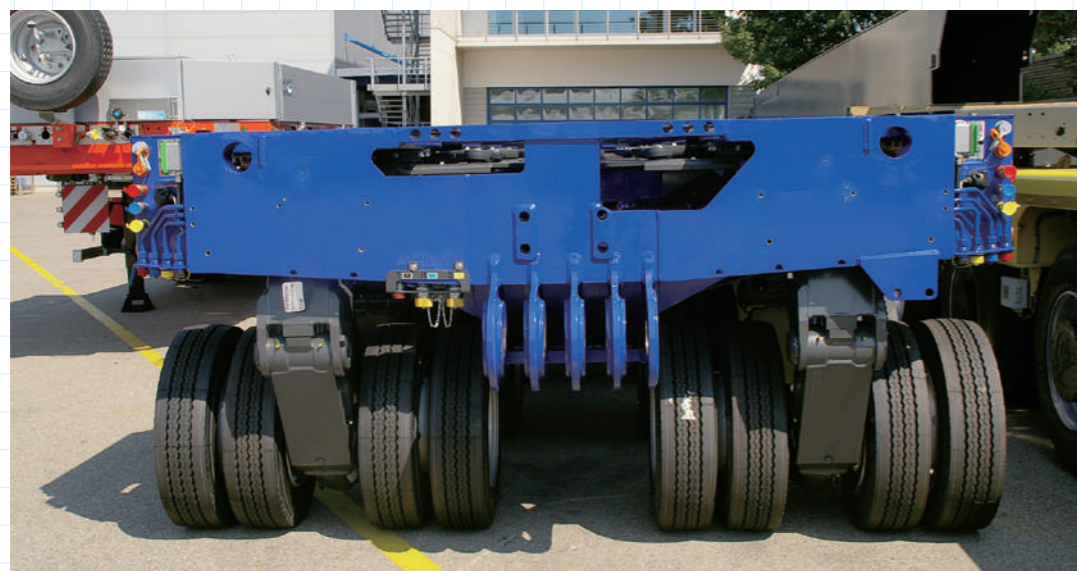
ラッシュカップリングを近くみる



カップリングの配列も美的に見える



フルトレカの組み合わせも要望によって仕上げられる



中央に見える 5 連の装置は「Lash Coupling ラッシュカップリング」と言って各種のアタッチメントの搭載に利用される



HDMの動力源はこうしたパワーモジュールPMが組み合わされる



こうした単純な高所作業台車も要望で対応する



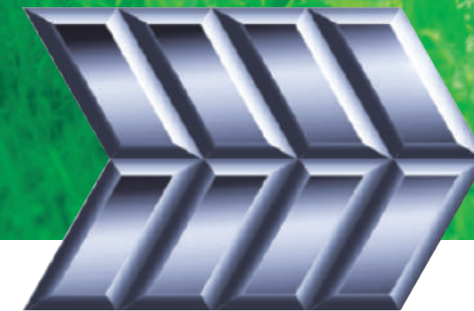
出荷を待つ製品群



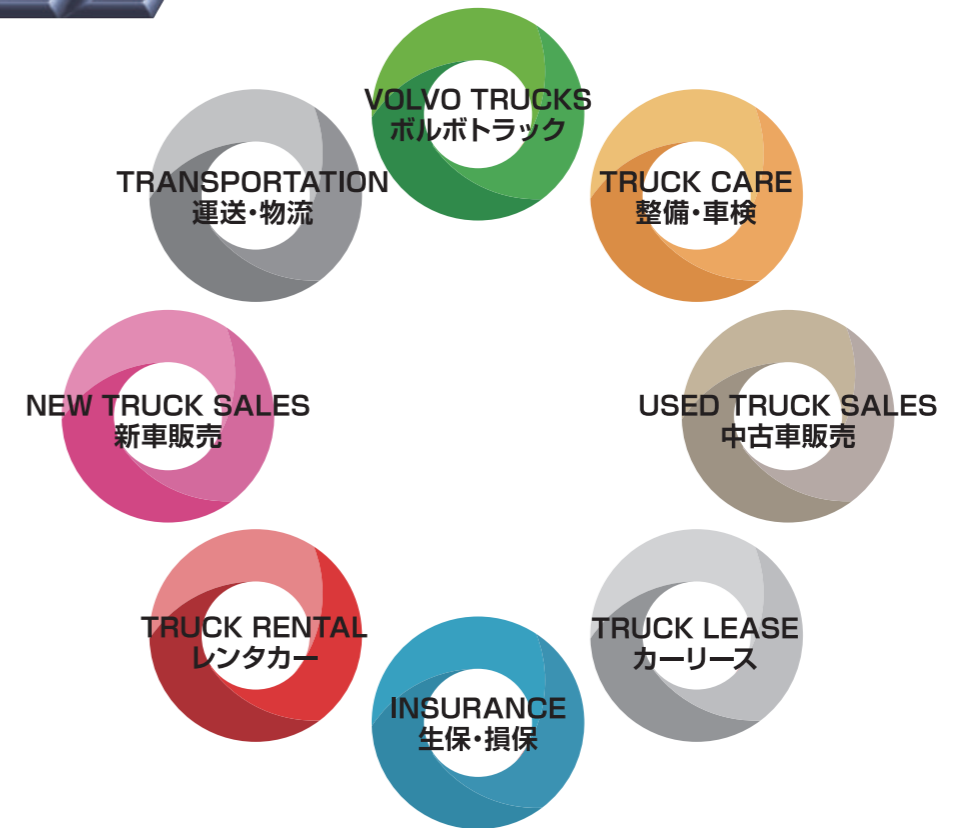
(本稿おわり)

エイト YOSHINO 8 トラックのすべてに全力貢献

環境を考える



ALL TRUCKS. YOSHINO MOTORS



株式会社 **ヨシノ自動車**

本社・工場 〒210-0852 神奈川県川崎市川崎区鋼管通4丁目1番6号本社
TEL:044(333)5656(代) FAX:044(333)5653